

第2部

富士見市第6次基本構想



2 理想の“未来”の構成要素

理想の“未来”の構成要素として、「暮らし・つながり・生活環境」の3つの視点に着目しました。個人としての「暮らし」、人と人が創る「つながり」、それらを取り巻く「生活環境」、この3つの視点が円(縁)となり、未来の“まち”を形づくるものと捉えています。また、「成長の継続」が力強く“まち”全体を押し上げるとともに、各要素が相互に作用することにより、さらなる充実を図り、理想の“未来”に近づいていくことを目指しています。

(1) 理想の“未来”の3つの視点

○実りある暮らし

- ◇心身ともに健康であることは、誰もが願うことです。その願いが叶う暮らしができる“まち”を目指します。
- ◇日々の学びなどを通じ、自分自身の成長を感じ取ることができる、いきいきと喜びにあふれた暮らしができる“まち”を目指します。
- ◇他者へのやさしさを持ち、他者から必要とされる存在になるなど、生きがいのある暮らしができる“まち”を目指します。

○充たされたつながり

- ◇人と人とのつながりの基礎である家族や身近な仲間とのつながりにより、安心とやすらぎに包まれ、過ごすことができる“まち”を目指します。
- ◇世代、国籍、地域などにかかわらず、多様な関係性が生まれ、必要な時に、必要なコミュニケーションが取れるように、周りの人を思いやり、助け合えるつながりのある“まち”を目指します。
- ◇新たな仲間を優しく迎えることができ、多様性を受け入れる風土のある“まち”を目指します。

○恵まれた生活環境

- ◇安心・安全は、生活環境の基礎です。防災、防犯はもちろん、暮らしの安心・安全が確保された“まち”を目指します。
- ◇緑豊かな自然と都市としての利便性を財産とし、調和とバランスの取れた住みやすいまちとして、他では叶わない「富士見市ならではの生活」が実感できる“まち”を目指します。
- ◇生活環境が充実することにより、「誰もが住みたい、住み続けたい・・・選ばれる“まち”」を目指します。



(2) “まち” を押し上げる「成長の継続」

○成長の継続

- ◇まちの経済が潤い、その潤いが新たな成長を生み出していく活力のある“まちづくり”により、さらなる充実を目指します。
- ◇まちへの愛着や誇りを増やすとともに、まちの魅力を向上させる“まちづくり”により、さらなる充実を目指します。
- ◇これまでの歴史を継承し、地の利や新たに加わる力も活かすことで、持続力のある“まちづくり”により、さらなる充実を目指します。

図【理想の“未来”】



“まち” を形づくる「暮らし・つながり・生活環境」を3つの円で表現し、富士山に見立てた「成長の継続」がその“まち”をさらなる高みへ押し上げ、晴れ晴れとした明るい“充実した日々”へ向かっている様子を、市章をモチーフに表しました。



4 理想の“未来”のまちづくり

理想の“未来”を目指すにあたり、『恵まれた生活環境』や『成長の継続』などを補完するため、都市計画マスタープランと整合を図り、まちづくり（都市計画）の目標を次のとおりとします。

○生活環境が整った快適なまちづくり

- ◇本市の地理的・交通的条件、自然環境などを踏まえ、誰もが安心して快適な生活を送ることができる、歩いて暮らせるまちづくりを実現するため、人が集まる拠点づくりと拠点を結ぶネットワークづくりを進めます。
- ◇効率的で活力のある都市をつくるため、人口減少・超高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりを進めます。

○魅力・活力が生まれる人が集まる拠点づくり

- ◇魅力とにぎわいを創り出し、まちの活力を高めるため、地域の特性を活かした人が集まる拠点づくりを進めます。
- ◇市内に位置する3つの鉄道駅周辺においては、商業・業務・行政など、日常生活の拠点到ふさわしい多様な都市機能の集積と、良好なまち並みづくりを進めます。
- ◇国道沿道などにおいては、新たな産業の立地や集積を促進します。
- ◇地域活力の維持・創出を図るため、田園環境や農業生産基盤を維持しながら、自然環境と調和した秩序ある計画的な土地利用を進めます。

○安全で円滑に利用できる交通環境づくり

- ◇人口減少・超高齢社会に対応した地域づくりでは、人の流れを生み出し、対流に変えていくことが必要です。利便性、快適性を高めるために人が集まる拠点を結ぶ、誰もが安全かつ便利に移動できる交通ネットワークを構築します。
- ◇交通ネットワークの構築にあたっては、地域公共交通網の充実や歩行者や自転車が安全で快適に移動できる空間づくりに取り組みます。
- ◇交通利便性や安全性を高めるため、都市計画道路などの都市間を結ぶ広域幹線道路の整備促進や地域の拠点を結ぶ幹線道路などの整備を進めます。



